



新型コロナ、インフルエンザの患者発生動向について

新型コロナウイルス感染症の第8波の流行は、**2023年1月初旬をピークとしてその後は減少**が続いており、**第8波は収束を迎えつつある**と考えても良いと思われます(図1)。第6波以降は全てオミクロン株による流行であり、第6波以降ここまでの患者発生数は約3,140万人(死者数53,732人、致死率0.17%)と国内のこれまでの累積患者発生数(約3,320万人)の95%を占めています。(2023年2月24日現在)

表. 各流行期間中の全国及び大阪府の新型コロナウイルス感染症患者発生数と死亡者数の推移
(2020年1月～2023年2月24日、厚生労働省HP: <https://covid19.mhlw.go.jp/> よりダウンロードされたデータを用いて作成)

各流行	期間	国内の感染者数	国内の死亡者数	致死率	大阪府の感染者数	大阪府の死亡者数	致死率
第1波	(2020年1月～5月)	16,898	892	5.28%	1,783	83	4.66%
第2波	(2020年6月～10月)	84,583	873	1.03%	10,970	159	1.45%
第3波	(2020年11月～2021年2月)	331,311	6,120	1.85%	34,368	875	2.55%
第4波	(2021年3月～6月)	366,945	6,891	1.88%	56,261	1,554	2.76%
第5波	(2021年7月～11月)	927,114	3,576	0.39%	99,752	393	0.39%
第6波	(2021年12月～2022年8月30日)	7,605,455	12,921	0.17%	811,037	2,146	0.26%
第7波	(2022年7月1日～10月31日)	12,990,896	15,386	0.12%	1,152,967	1,400	0.12%
第8波	(2022年11月1日～2023年2月24日)	10,851,115	25,475	0.23%	643,606	1,728	0.27%
総計		33,174,317	72,134	0.22%	2,810,744	8,338	0.30%

次に、インフルエンザです。2020年の新型コロナウイルス感染症の流行以降、国内ではインフルエンザの患者発生は殆ど見られませんでした。今シーズン(2022/2023年シーズン)になって、**2シーズンぶりにインフルエンザの国内流行**がみられました。全国約5,000箇所にあるインフルエンザ定点医療機関からの、定点当たり報告数による大阪府の流行は第5週が流行のピーク(第5週の定点当たり報告数は29.91)であり、その後は2週間連続して減少が見られています。当院の存立している**大阪市北部も第5週が流行のピーク(定点当たり報告数39.50)**であり、**大阪府の中でも大きな流行となりました**(図2)。ただ、新型コロナウイルス感染症が現れる以前であった2019年までのインフルエンザの流行と比べると、大阪市北部の流行水準で例年通りであり、大阪府の流行は例年よりも小規模、全国の流行はそれよりもさらに規模が小さいと評価せざるを得ません。

ピークが過ぎ去りつつあるインフルエンザの流行が収束を迎えた場合、新型コロナウイルス感染症の流行はどうなっていくについては、まだ予測はできません。ただ、国内で循環しているウイルスは同じオミクロン株内でBA.5から更に免疫逃避能力が高いとされるBQ.1、BA.2.75の変異株に着々と置き換わりつつありますし、全く油断はできないと思われます。(感染管理室 安井良則)

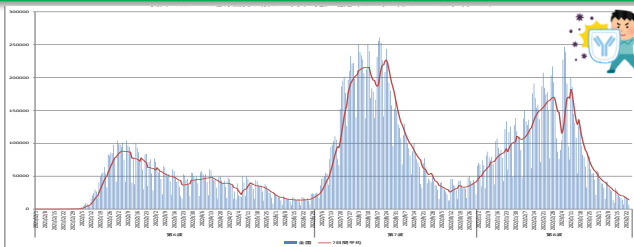


図1. 新型コロナウイルス感染症の全国の患者発生数と7日間平均値の推移
(2021年12月1日～2023年2月24日、厚生労働省HP: <https://covid19.mhlw.go.jp/> よりダウンロードされたデータを用いて作成)

第8波における患者発生数も既に約1,090万人と1,000万人を超えています。死亡者数は25,475人と多く、致死率も0.23%(大阪府は0.27%)と、第6波、第7波よりも上昇していることが指摘されていますが、2022年9月26日より感染者の報告基準が大きく変更されており、結果的に患者発生報告数がこれまでのサーベイランスに比べて少なく報告されていると評価されていることが大きな要因であると思われます(表)。

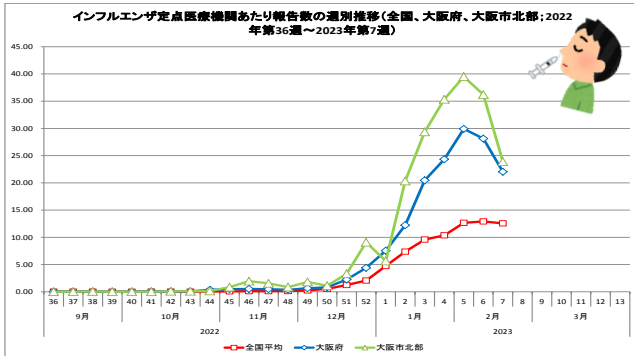


図2. 全国、大阪府、大阪市のインフルエンザ定点医療機関当たりの報告数の週別推移
(2022年第36週～2023年第7週、国立感染症研究所HP: <https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr.html>、大阪府感染症情報センターHP: <http://www.iph.pref.osaka.jp/index.html> よりダウンロードされたデータを用いて作成)

新型コロナウイルス抗原定量検査がスタートしました!!

新型コロナウイルスを検出する検査に新しく「**抗原定量検査**」が加わりました!!この検査は、「**LUMIPULSE(ルミパルス)**」という可愛い名前の機器を使います。測定時間が**約30分**で、**1時間に120件の検体を検査**することができる機器です。この機器を導入することで、一日に検査できる検体数を大幅に増やすことが可能となりました。当院では、現在入院予定の患者さんに対して入院前にPCR検査を行い、院内への新型コロナウイルスの持ち込みを防いでいます。しかし、発症までに潜伏期があるため、ウイルスを持ち込み、入院後に発症する患者さんもうらっしゃいます。この機器を使うことでそんな患者さんをいち早く見つけるための入院後スクリーニング検査ができるようになりました。



喀痰では検査できません!!



唾液はこのラインまで
しっかり入っていますか?

検査のオーダー方法は「**新型コロナウイルス抗原定量(唾液)**」を選択してください。検査の報告結果がこれまでの新型コロナウイルス関連検査と異なり、数値になります。判定基準値をコメント欄に記載していますので参照してください。また、免疫反応検査となるため「判定保留」域があります。「判定保留」となった場合は遺伝子検査(PCR法又はTRC法)にて再検査(唾液検体の再提出は不要)を行います。「判定保留」時はその旨を連絡しますのでオーダー入力をお願いします。(細菌検査室 稲村真由美)



抗原定量検査をスタートさせるにあたり、ご協力くださった皆様、ありがとうございました!!